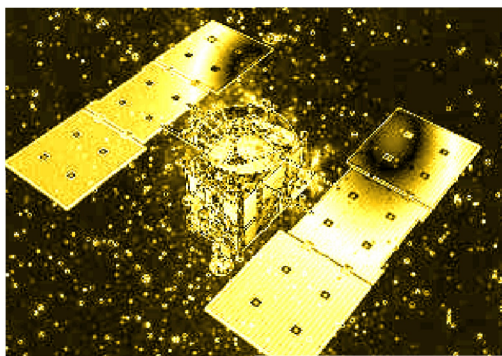


宇宙軍拡すすめる

(ジャクサ)



JAXA法改悪反対



「はやぶさ」の技術も軍事に利用されようとしています。

幾多の困難を乗り越えて、3億キロかなたの小惑星「イトカワ」から粒子を持ち帰った惑星探査機「はやぶさ」の物語は、映画化もされ感動と宇宙へのロマンが広がっています。ところが政府は、「平和目的に限り」と限定されていた独立法人宇宙航空研究開発機構法（JAXA法）を改悪し、宇宙の軍事利用を拡大しようとしています。科学を戦争に動員した過去の誤りを繰り返すことは許されません。JAXA法改定案を廃案に追い込むことが重要です。

平和利用は宇宙開発の「いのち」

「平和の目的に限り」という規定は宇宙の軍事利用を禁止するために定められたものです。1969年に宇宙開発事業団法が制定されたさい、「憲法の趣旨にのっとり、非核・非軍事を趣旨として」盛り込まれ、JAXA法に引き継がれました。まさに宇宙開発の「いのち」です。野田佳彦政権が「平和の目的」規定の削除を強行するのは、憲法の平和原則を守る姿勢がないことをうきぼりにするものです。

米国の要請、JAXAの技術を宇宙軍拡に利用

政府の狙いはJAXAの高い技術を宇宙軍拡政策に動員することです。

政府が宇宙軍拡を進めるのは、日米軍事同盟の飛躍的強化を求めるアメリカの要求に応えるためです。日本が軍事衛星から得た情報をアメリカに提供するなど、アメリカとともに海外で戦争する態勢づくりが一段と加速します。日本と世界の平和を脅かす企てを許すわけにはいきません。



財界に軍需産業で儲け口

JAXA法の改悪は財界・兵器産業界の要求そのものでもあります。何種類もの軍事衛星を数多く打ち上げるには巨額の費用が必要です。宇宙軍拡で大もうけを図るのが狙いです。



研究成果の共有もできない

JAXAが宇宙軍拡に組み込まれることで、宇宙開発の「自主・民主・公開」の原則が危うくなります。自衛隊法は軍事秘密を漏らした者に懲役5年以下の刑罰を科しています。野田政権は懲役を10年以下とする秘密保全法づくりも企てています。軍事衛星の情報は秘密のため、衛星について自由に成果を発表し共有し合う研究者らの自由さえ奪われることとなります。



JAXA法改悪反対ネット署名にご協力を！

<http://jaxaforpeace.a.1a9.jp>

宇宙へのロマンを大切に
宇宙研究・開発は平和主義で